

2021年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1492100092	事業の開始年月日	平成21年11月1日
		指定年月日	平成21年11月1日
法人名	株式会社 メディカルケアシステム		
事業所名	グループホームちいさな手鎌倉の杜		
所在地	( 247-0066 ) 神奈川県鎌倉市山崎756-2		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員 計	18 名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日	令和3年10月10日	評価結果 市町村受理日	令和3年12月20日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

鎌倉という由緒ある土地の環境も静かなお洒落なホームで、毎日活気があり楽しみがあるホームを目指しつつ、安心して生活して頂けるよう自立支援に向けて努めております。好きなこと、得意なことを忘れないで欲しい活動では、編み物、お裁縫、お菓子づくり、園芸活動を充実させてます。

月に2回の訪問診療、週1回の訪問看護を実施し病気の早期発見、早期治療を行い医療との連携を図っております。

入居者様の住み慣れた地域で御家族、ご友人、近隣の方々が、いつでもホームにお越し頂けるよう、繋がりを大切に笑顔溢れるホームを目指しております。

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鶴沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和3年11月17日	評価機関 評価決定日	令和3年12月7日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は、湘南モノレール「富士見町」駅または「湘南町屋」駅下車徒歩7分、バスの場合は、京急バス「湘南鎌倉総合病院前」下車徒歩2分です。新しい住宅街の奥に位置し裏手は森に囲まれています。直線を生かした二階建ての現代的デザインの建物で、南側の大きな窓が特徴的です。閑静な街並みにマッチしています。

<優れている点>

室内は木質系で温かみがあり、明るいろビングやサンルームで入居者はくつろいでいます。コロナ禍で入居者の外出や外部との交流が困難な中、建物の設備や周辺の環境を最大限に活用しながら、職員は入居者が安心して毎日笑顔で過ごせるように努力しています。コの字型の建物の間にある日当たりの良いウッドデッキの中庭テラスを活用して、オープンカフェに見立てランチタイムを楽しんだり、花を愛でながら外気浴をしています。裏の森ではどんぐり拾いや小鳥の観察ができる環境となっています。桃の節句には職員が着物の着付けをし、所内の夏祭りには甚平を用意したりと、レクリエーションを充実させて楽しくメリハリのある生活ができるよう尽力しています。

<工夫点>

法人の方針でもある、職員の人間性と社会性の高い人材育成のための手法として、毎日の業務を振り返りながら目標項目をセルフチェックでポイントをつけ、ポイント数で目標達成度を客観的に知ることができる制度を導入しています。これにより職員に気づきを促すとともに、事業所全体の介護サービスの向上に繋がっています。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	12 ~ 16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	17 ~ 23
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームちいさな手鎌倉の杜
ユニット名	1F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「愛・生きる喜び・快適な生活」の3Lの精神を理念とし、入居者様、ご家族様、スタッフひとりひとりの幸せが大きな幸せにつながるよう豊かな生活の実現に取り組んでおります。	法人理念の3Lに加えて、「活躍・感動・感謝」の3Kを独自の理念としています。玄関への掲示などで周知し、職員の更衣室にも張り出し、勤務前に意識するように配慮しています。職員は行動指針を記載したカードを常に携帯し、入居者がいつも笑顔で過ごせるよう努力しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	昨年までは地域老人会との交流がありましたが、新型コロナウイルスの感染拡大により、現在は交流がありません。	交流行事などは感染予防の為、中止を余儀なくされていますが、町内会報や近隣住民を通して地域の情報を把握しています。平常の環境が取り戻せたら、以前のような交流を再開することは可能であり、関係者や関係団体との繋がりを維持するよう努力しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域包括支援センターの方と地域の方々に向けた介護講座を開催予定でしたが、緊急事態宣言のため中止となってしまいました。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	新型コロナ感染の防止に努め、運営推進会議は開催出来ておりません。	構成員は、市職員、町内会長、地域包括支援センター職員、民生委員ですが、止むなく職員のみの変則的開催としています。事業所の近況、予定、計画等の話し合いをしています。会議録は関係者、関係機関に送付するとともに、事業内でもファイルにして職員が閲覧できるようにしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	新型コロナ感染の防止に努めつつ、電話やファックス、メールなどの方法で不定期ですが連絡を取ってます。	市には運営推進会議録を毎回送付していますが、直接面談して説明することはコロナ禍の為、自粛しています。必要な連絡、相談は種々の連絡手段を利用して協力・信頼関係を維持しています。地域包括支援センターなど関係団体とも、面接は避けながら連絡を取っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の防止については、研修、ミーティングなどで周知徹底を図っており、定期的に支援方法を検討しております。出入口の施錠につきましては安全の為施錠させて頂いております。	身体拘束廃止に係る委員会は3ヶ月ごとに開催し、事故報告やヒヤリハット事例など検証しながら防止の徹底を図っています。職員へは、ミーティングや研修を通じて意識啓発を行い、個別事例を通じて何気ない言動も該当する可能性があることを学んでいます。出入口の開錠は外出希望があれば随時対応しています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待に関しましては、3ヶ月毎に研修を実施しております。毎月のミーティングなどでも周知徹底を促しております。	研修は、身体拘束廃止に係る委員会の開催に合わせて実施しています。スピーチロックや、その他の不適切なケアが発生しないよう機会を捉えて話し合っています。また、原因が職員の過度な負担やストレスに依ることのないよう管理者は職員と定期的に面談し意思疎通を図っています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在は事例がありませんが、成年後見制度の活用の支援を行なえるよう今後も学ぶ機会を持って行きたいと思えます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居相談時に当ホームの理念、方針、規約のご説明を事細かにしています。疑問点をお互い確認し納得して頂き、契約を結んで頂いております。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族様が来所された際にご意見、ご要望をお伺いし運営に反映するよう努めております。また、意見箱を設置しています。	直接の面談は困難ですが、月一回送付する便りで入居者の様子を伝えていきます。家族とは、電話やメールで気軽に連絡や相談ができる関係を構築しています。家族からペットを連れて面会したいとの相談があり、窓越しではありますが実現した例もあります。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員は毎月ミーティングを実施し、意見交換などを行い、適切な業務の遂行に努めております。また、日頃から全員が些細なことでも業務提案しやすい環境作りにも努めております。	職員とは日頃から気軽に意見交換できる関係性を築いています。さらに、昨年からは、職員5人で構成する業務改善委員会を立ち上げ、諸課題を職員からの提案を取り入れることで、PDCAサイクルの手法を用いて順次改善策を実施し、働きやすい環境づくりを推進しています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年2回の管理者と職員の個人面談を設け、成功事例を評価し、やりがいに繋げられるう行っております。年更新の雇用契約は賃金の見直しを行っております。残業はほぼなくライフワークバランスを持てるような職場作りに努めております。	職員とは個人面談や日頃の業務のやり取りの中で信頼関係の構築を心がけています。職員の勤務成果を適正に評価してモチベーションを高めるとともに、ストレスをためない様に過度な負担はないか確認し、分担を適宜交代するなど創意工夫して職場環境づくりを行っております。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	毎月本社ではリスクマネジメントベーシックコースを3日間開催しております。代表自らご講義に立って下さり再度ミーティングの時に内容を確認し、職員全員の介護技術の向上に努めております。女性リーダー研修への参加も実施しています。	管理者は常に職員の人材育成計画を念頭において業務を推進しており、職員のスキルアップのための研修参加も積極的に促しています。研修結果はホームミーティングで、何を学んだか、それをどのように活かして実践していくかなどを発表し、意識啓発に努めています。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	本部研修を通じ、同グループの職員間で意見交換やディスカッションを行う機会があります。また、他ホームに手伝いに行き、互いに刺激しあう取組みを積極的に行い始めました。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	実態調査を丁寧に行い、ご本人の思いや不安をよく傾聴しています。出来る事と出来ない事をきちんとお伝えし、安心、理解を頂けるようコミュニケーションを大切にしております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族のご意思に沿ったサービスの提供ができる様ご要望、ご不安をお聞きしながらお互いに話し合うことで良い信頼関係を築けるよう努めております。最近ではショートメールなどで頻繁に情報を共有できるように対策をしております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	フェイスシートを作成し、支援内容の共有、サービスをさせて頂いております。また職員が生活の中で気づいたこと、知り得たことを追記し支援の検討を行っております。課題にはPDCAサイクルを活用し取り組んでおります。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	ご本人様のお気持ちを大切にしながらも、一緒に手伝って頂けることに関しては出来る限り手伝って頂くことにより、共に生活している意識を持って頂き、関係性を築いております。また、入居者様同士の助け合いも頻繁に行われております。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	入居者が日々穏やかに過ごして頂けるよう、ご家族様との協力体制を大切にしております。コロナ禍の中、対面面会は中止し窓越しの面会に変えていつでもご様子をご覧頂けるよう行いました。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご親戚や、ご友人とのお電話の取次ぎや手紙での連絡などは自由にして頂いております。	入居者の日頃の言動や意向に寄り添いながら家族の要望も踏まえ、コミュニケーションを十分取りながら、人や場のつながりの継続を積極的に支援しています。来訪者の利便性のため来客用駐車場を設けるとともに、状況が許せば、外出の支援も随時行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者様それぞれが興味をお持ちの事柄を把握し、その日の心身状態や気分、感情の変化をみながらレク等への参加を促して皆様で楽しめる時間を作っております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退所後のご家族様との交流は事業所側として、積極的に行ってはおりませんが、ご家族様からのご連絡には最善な対応を心掛けております。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご入居者様、ご家族様のご希望やご要望をお聞きし、無理のないケアプランを心掛けています。	「穏やかに過ごすこと」を多くの入居者と家族が希望しており、この要望に添った介護を心がけています。毎日行う体操について、これを負担に感じる人には1日おきにするなど、手伝いは、無理のない範囲で手伝うなど、利用者の立場になって支援しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	これまでの生活歴、ライフスタイルをご家族様やケアマネにお伺いしております。ご本人様に合った最適なサービスの提供に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々のバイタルチェック、食事量、水分量の確認、起床時間、睡眠時間などを記録し体調の様子を把握し、ご自分で出来ない事柄については支援させて頂いております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	個別カンファレンス、ミーティングを通じて意見交換を行い、適切なケアに取り組んでいます。	介護計画書は通常3ヶ月ごとに作成しています。作成に当たっては、担当者会議を開催して課題を抽出しています。ケアに関わるスタッフや、医師、看護師の意見などを参考とするとともに、本人および家族の意向を反映したケアプランの作成に努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケアプランに沿って日常を過ごして頂きながら体調や行動の変化があった場合には、申し送りや、個人記録に記入しスタッフ間で情報共有をし、見直しを行っております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご入居者様の意思を尊重し、ご希望に沿うような個別対応を心がけております。またそのためのツールを増やす様、職員の特技や特性を活かした体制づくりにも努めております。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の訪問マッサージを利用頂いたり、図書館で紙芝居を貸し出し頂いたり、市の公園など、外出散歩レクに利用させて頂いています。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	常にご家族様には身体状況を説明できる様、コミュニケーションを取っております。ご家族様の意向を大切にし、日常の往診に加え、必要があれば病院受診をして頂き、ご本人の健康に留意しております。半数以上の方が医療マッサージを週2回から3回受けて健康維持、ADLの低下防止に努めております	協力医は月に2回来訪し、全員を診察しています。歯科医は週に1回来訪し、受診希望者の診療をしています。従来からのかかりつけ医を継続受診する人もいます。原則的に家族が付き添いとなっていますが、止むを得ない場合は、職員が同行しています。	



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	申し送りを通じて情報を共有し、介護職員⇒ホーム長⇒ホーム看護師⇒主治医に速やかに医療連携を繋げています。特変時は、主治医の判断の元、専門外来の受診などに繋げております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関からの情報を元に退院時より安心して生活に戻れるよう環境を整える支援を行っております。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ミーティングを開催し、御本人や家族の希望に添った支援、サービスを確認し、最後まで安心して生活して頂けるよう努めています。	入居時に、重度化に際しての指針を説明しています。終末期には、家族、主治医、管理者が集まり、病状を説明し、今後の治療方法を話し合い、同意を得ています。事業所では看取り対応も行っています。終末期に関する職員研修も、定期的の実施しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時の対応についての研修会を実施しております。もしもの時に慌てず対応できるように各自備えております。なお、マニュアルを自由に閲覧出来る様にしています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	職員は毎日、消防・避難誘導設備の点検を実施しています。年2回の専門会社の火災報知器点検も実施済みです。	避難訓練は年に2回、火災や地震を想定して実施しています。職員と入居者がペアを組み、避難経路の確認などを行っています。今年はコロナ禍で、消防署の協力はなく、ホーム内でできる訓練を実施しました。備蓄品については、リストも作成しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	ご本人のお気持ちを大切に、さりげないお声掛けと、選択肢をもったサービスに努めております。お一人お一人の個性に合ったケアを実践しております。	入居者の行いたいことや趣味などを確認し、各自の要望に添った対応を心がけています。入居者に対しては、常に敬う気持ちで言葉かけや呼びかけを行っています。人格の尊重とプライバシーの確保に関する職員研修は、毎年事業所内で実施しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	ご本人のご希望を言いやすい環境、自己決定できるようなお声掛け・雰囲気作りを心掛けております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ベースとなる時間割振りはありますが、ご本人の意思を尊重し、無理強いはしないよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	各居室にご本人所有の鏡や化粧品があり、自由に使っています。また、ご自身で行えない方には整容の支援を行い、レクリエーションでメイクを施すこともございます。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	ホワイトボードにご入居者様に献立を書いて頂いております。それを見てご入居者様同士での会話も広がっております。盛り付けを一緒にさせて頂きながら料理の知恵などを教えて下さり、お手伝いも積極的にして頂いております。	食材は業者が毎日配送し、職員が調理をしています。入居者は調理の手伝い、配膳、後片付けなどを率先して行っています。リクエストに応じて、時にはお好み焼きや焼きそばなどを提供し、レクリエーションでは弁当やサンドウィッチなどを用意しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	1日に必要とされる水分摂取量や食事量の摂取の留意点を把握して、小まめにチェックと支援を行い記録しています。ご入居者様に合った刻みやミキサー食、ご入居者様が好きな飲み物などをご家族様にお聞きし、提供しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後、口腔ケアを実施しております。ご自分で出来るところはお声掛けで対応し、難しいところは職員が介助させていただきます。その際、異変などの確認も行い、歯科医院に連携を取るなど支援を行っております。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	ひとりひとりの排泄パターンの確認を行っています。気になること、こうしてみたら良かった等の方法を職員間で意見を出し合い、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援に努めております。4名の方のおムツ外しに成功致しました。	在宅での排泄パターンと入居後の状況を記録し、職員で共有しています。トイレでの排泄に努め、数名の入居者がオムツが外れた事例もあります。夜間、頻回の人には部屋にポータブルトイレを置き、尿意、便意を感じられない人にはオムツを使用するなどの対応をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	便通の記録、ご利用者様の様子をよく観察し、看護師に報告、相談を行っております。適度な運動、また牛乳やヨーグルトを召し上がって頂き便秘予防に取り組んでおります。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	安全に入浴して頂くことを第一に支援しています。ご自身で出来ることは行って頂いています。一対一でケアをさせて頂いているので、普段聞いたことがない昔話などもたくさん聞かせて下さいます。シャワー浴や清拭など個人に合わせた支援も行っております。	週に2回の入浴を実施しています。一人ずつ個別に対応し、1人30分以上の入浴時間を確保しています。毎回湯を入れ替え、風呂場の清掃、消毒もその都度行っています。入浴前にバイタル測定をして、体調不良の人は清拭に変更し、清潔保持に努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	生活リズムや体調が崩れないよう、お一人お一人の体力に合わせて適度な休息を取って頂いています。日中は適度な運動や外気浴をして頂き、夜間しっかりとした睡眠がとれるよう雰囲気作りや室内温度などにも配慮しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬剤情報の確認、共有をしております。服薬支援の際は、日時・名前・用量を複数のスタッフで確認、ご本人様に伝えながら一緒に確認して頂き、飲み込むまで目視し、服薬事故防止を徹底しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	縫物が好きだった、庭いじりが好きだった等の情報を活かし、その方に合わせた余暇活動の支援を行っています。また、集団でのレクリエーションも意欲的に行っております。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天気の良い日には外気浴を楽しみます。中庭でカフェのような雰囲気を作り、皆様でおやつを召し上がることもあります。また月に数回、ドライブを行うことで気分転換を図っております。	コロナ禍のために外出は制限され、入居者との買い物は自粛していますが、近所の公園までの散歩には出かけています。天気の良い日には外気浴を楽しみ、時々ドライブもしています。外出の自粛については、家族の理解を得て感染予防を優先しています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金は原則として所持されておませんが、近隣へのコンビニへ同行し、買い物を楽しむことがあります。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご本人の希望がある時は電話の取次ぎを行っております。携帯電話を所持されてるご入居者様もおられ、お好きな時に連絡をされています。ご家族に手紙を書かれる方もいらっしゃいます。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	清潔感と、温かみのある空間になるよう、不要な装飾はせず、季節を感じられる展示物の掲示に努めています。	リビングなどには、書初めやひな祭り、お花見など、季節を感じさせる展示物やイベントの写真などを掲示しています。共用空間の清掃は1日2回、換気は適宜行っています。食事前後のテーブルやキッチンの消毒はその都度実施し、トイレは使用者ごとに消毒しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食席では気の合う方と談話をして過ごされたり、ソファ席ではお一人でゆっくりテレビを観られたりと居心地の良い環境作りを工夫しております。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ご自宅で使い慣れた家具を設置することで、安心して休んで頂ける空間作りを行っています。また、転倒リスクの軽減を図るため、センサーマットや手すりを導入し安全に快適な生活の工夫をしています。	居室のエアコン、クローゼット、介護用ベッドは備え付けです。入居者はイス、机などの使い慣れた家具類、鏡や仏壇、テレビなどを持ち込んでいます。居室の清掃は日勤の職員が、ローテーションを組んで、毎日行っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	自立支援、残存機能の保持を目的に、日常の中で出来る事はお手伝いして頂き、安全に作業ができる様動線の確保や整理整頓に努めています。		

事業所名	グループホームちいさな手鎌倉の杜
ユニット名	2F

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「愛・生きる喜び・快適な生活」の3Lの精神を理念とし、入居者様、ご家族様、スタッフひとりひとりの幸せが大きな幸せにつながるよう豊かな生活の実現に取り組んでおります。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	昨年までは地域老人会との交流がありましたが、新型コロナウイルスの感染拡大により、現在は交流がありません。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域包括支援センターの方と地域の方々に向けた介護講座を開催予定でしたが、緊急事態宣言のため中止となってしまいました。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	新型コロナ感染の防止に努め、運営推進会議は開催出来ておりません。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	新型コロナ感染の防止に努めつつ、電話やファックス、メールなどの方法で不定期ですが連絡を取ってます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	3ヶ月毎の研修、個別カンファレンス、ミーティングを通じて学び、意見交換を行い、適切なケアに取り組んでいます。		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	3ヶ月毎の研修、個別カンファレンス、ミーティングを通じて学び、意見交換を行い、適切なケアに取り組んでいます。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在は事例がありませんが、成年後見制度の活用を支援を行なえるよう今後も学ぶ機会を持って行きたいと思っております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	入居相談時に当ホームの理念、方針、規約のご説明を事細かにしています。疑問点をお互い確認し納得して頂き、契約を結んで頂いております。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族様が来所された際にご意見、ご要望をお伺いし運営に反映するよう努めております。また、意見箱を設置しています。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	管理者と職員間で話し合う関係性が図れており、日々より良い施設運営について意見交換ができております。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	就業規則に基づいて勤務し、人員体制を手厚くする事で日々の業務を確実・丁寧に実践出来る様、環境の整備に取り組んでおります。代表者は常に人員体制の把握に努め、業務が円滑に行われているか環境整備に努めています。		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	本部研修とは別に定期的にホームで勉強会を実施し、日々の介助方法の確認や、正しいケアの実践方法を学ぶ機会を設けております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	本部研修を通じ、同グループの職員間で意見交換やディスカッションを行う機会があります。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居時に、なじみの関係を築くため担当者を設置し職員と1対1でゆっくりとお話を伺う時間を取るなど、ご本人の要望を賜っております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居契約時に、お話を伺いご要望に沿ったサービスが提供できる様努めております。ただし、できないことはできないと言えるよう、丁寧な話し合いを心掛けております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居契約時に、お話を伺いご要望に沿ったサービスが提供できる様努めております。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日常生活において、ご自身で出来る事や、職員の業務の中で出来そうなことをお手伝いして頂いています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族がいつでもご本人に会えるよう、コロナ禍においても窓越しにてお顔を併せて頂いたり、遠方のご家族様にはビデオ通話でお話して頂く等しています。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	年賀状やお手紙のやりとり、面会のご希望をお伺いしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	日中はレクリエーションを行い交流を図っています。また、食席にも配慮し入居者様同士お話が弾むよう支援しております。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去された後もしご希望があればご連絡頂くこともございます。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の生活の会話の中で、ご本人の要望を伺っております。お話が困難な方には表情を読み取り、苦痛のない生活を支援しています。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ご家族様に聞き取りを行い、ご本人の生活歴に近い暮らしが出来るよう努めています。好きな食べ物やお洋服など差し入れて頂いています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ご本人の希望を受け入れ、ご本人の身体状況やお気持ちに添った支援を行っています。定期的にあセスメントを行い課題の抽出に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	まずはご要望を確認させていただきます。サービス担当者会議を開催し、個別カンファレンス、ミーティングを通じて意見交換を行い、適切なケアに取り組んでいます。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の申し送りの中で、気づきや発見を共有し、以降の支援に活かしています。また、個別カンファレンスにてフィードバックを行い、良い結果に繋がるよう努めています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	個別支援に力を入れております。何をしたいか、何が好きかを確認し実行に繋げております。フロアではなく中2階に場所を移し、クッキングスクールを行ったり、園芸クラブを発足させたりと職員の特性も活かしサービスの質の向上に努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	植物園を利用しております。地域の老人会の支援で、扇子と扇子袋を頂くなど、コミュニケーションを大切に地域の高齢者との関りを持つようにしております。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	日常の往診に加え、必要があれば病院受診をして頂き、ご本人の健康に留意しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	ホーム専属の看護師により週1回の訪問看護を行い、24時間のオンコールで密に連携をとっています。看護師との連携を取り心身のチェック、医療面のアドバイスを受け異常時には的確な指示の下、介護を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医、看護師との連携を図り病気や怪我の早期発見治療に努め、可能な限り長期入院を避けるようにしています。また、ご家族様と共に回復状況等の情報等交換に努め、退院支援に結びつけています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご入居時に看取りに関する指針をご説明し書面にて承諾を頂いております。段階ごとにご家族様、主治医、ホーム長、看護師、ケアマネージャーと意向を確認しながら、対応方針の共有を図っています。それぞれの役割を大切にチームとして取り組んでおります。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	応急手当、管理者への連絡が速やかに行えるよう職員に指導しています。マニュアルを掲示しいつでも確認できる様にしております。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的に消防設備の確認、点検を実施しています。地震発生時には入居者の所在確認を第一に行うこと周知しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	常に敬意を払い、お一人お一人のその時の状況やお気持ちを大切に考え、生活スタイルや個性を踏まえながら、親しみを持って頂ける言葉掛けや、安らぎを感じて頂ける対応をさせて頂いております。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	本人の思いや希望を大切にし、会話の中で感じ取り、ご本人にとって何が必要かを考え、自己決定できるよう、お一人お一人にあった形で、いつでもお気持ちを伝えやすい雰囲気づくりと、答えを引き出せるような言葉掛けを心掛けております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ベースとなる時間割振りはありますが、ご本人の意思を尊重し、無理強いはしないよう支援しています。個人の時間と集団の時間を持って頂くよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	各居室にご本人所有の鏡や化粧品があり、自由に使っています。また、ご自身で行えない方には整容の支援を行い、レクリエーションでメイクを施すこともございます。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	咀嚼・嚥下に留意し、いつまでもご自分の意思でお食事が出来るよう口腔ケアの支援をしております。また、刻み食、ミキサー食にも対応しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事摂取量、水分摂取量を毎日記録しています。変化があれば情報共有し、食べやすい物、飲みやすい物を検討しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケアの支援を実施しています。ご自身で行うのが難しい方は職員がサポートしています。訪問歯科に診療依頼し、ケアのポイントを共有しています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄表の記入により、24時間排泄回数を把握し職員間で共有しています。排泄時間にお声掛けし、なるべくトイレで排泄されるよう支援しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排泄パターンの確認を行い、定期的なトイレ誘導の実施、ご様子を見てお声掛けによるトイレ誘導を行います。尿とりパットやリハビリパンツの交換を行い、清潔の保持に努めております。日々の陰部洗浄も欠かしません。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	安全に入浴して頂くことを第一に支援しています。ご自身で出来ることは行って頂き、ヒートショックに十分留意しながら、入浴を楽しんで頂けるよう努めています。季節に応じて、また身体状況に応じて清拭やシャワー浴を実施しています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	21時を消灯しております。早く就寝する方もいれば、自室でゆっくりとした時間を設け休まれる方もおります。清潔な寝具で、安眠できる様支援しています。室内温度計を設置し、温度管理に努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	訪問看護、薬剤師と連携し、服薬について指導をして頂いています。また、服薬管理表を使用し、服薬確認を確実にできる様に行っています。服薬事故を起こした場合は速やかに報告と業務改善に取り組んでおります。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	縫物が好きだった、庭いじりが好きだった等の情報を活かし、その方に合わせた余暇活動の支援を行っています。また、そのお姿を写真に収めご家族様にご覧頂くなど、共有をすることで皆様の幸せに繋げております。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	天候の良い日には、ご入居者様のご希望を伺ったり、職員から声掛けををさせて頂き、中庭やホーム周辺や近所の公園まで散歩に同行させて頂いております。ドライブなども行っております。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	買い物の支援は現在行っていません。ご希望の購入品がある場合は、ご家族様に差し入れ頂くか、ホームで立替しております。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	好きな時に家族、友人とお話しできる様、携帯電話を所持していらっしたり、折に触れご家族に向けお手紙を書いて頂いたりしています。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	清潔保持、整理整頓に努めております。大きな窓ガラス、高い天井は開放的な居住空間で皆様、穏やかに過ごして頂いています。以前開催した行事の写真を掲示したり、花を飾るなど行い、快適な空間の演出に努めております。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	リビングは常に解放し、共用のテレビを利用出来ます。皆さんで談笑したりと自由に過ごす事の出来る空間を大切にしています。リビングで新聞をゆっくり読まれりソファでテレビをご覧になられたりと思い思いに時間をお過ごし頂いております。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	殆どの方が、自宅で使用していた家具などを持ち込んでいらっします。居心地の良い居室作りの中にも、安全性を考慮した対応を行っております。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室内は状態に合わせて怪我や転倒を防止する工夫をしております。ベッドの高さやイスの高さなど安全に立位できる高さに設置し転倒防止に努めています。プライバシーに配慮しながら、夜間はセンサーを設置し介護職員が目が届くよう工夫しております。		

2021年度

事業所名 グループホームちいさな手鎌倉の杜  
作成日：2021年 12月 19日

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	11	職員は毎月ミーティングを実施し、意見交換などを行い、適切な業務の遂行に努めておりますが、課題の取り組みや改善の周知徹底に時間が掛かっています。周知徹底できるフローを決めて行きたいと思っております。	全員が、「わかった」から「できた」と言えるような環境整備を行って参ります。	課題抽出し計画、実行、評価、改善のステップを期間を決め取り組める様、チェックシートを作成し、フローを明文化して参ります。	6ヶ月
2	23	ご入居者様、ご家族様のご希望やご要望をお聞きし、ケアプランに反映してありますが、さらに具体的にやりたい事や、夢などを積極的に確認して行きたいと思っています。	思いや意向の把握を更に追求して参ります。	入居様の思いに寄り添い、心残りな事ややりたかった事、夢などを実現できるよう、ヒアリングを実施致します。それに向けた短期目標、長期目標を積極的にケアプランに反映させて参ります。	12ヶ月
3	13	職員を育てる取組みとして、社内、社外の研修を受けておりますが、無資格者の為の資格取得を行って行きたいと思っております。	2022年中に4名の無資格者が初任者研修取得ができる様、支援を行って参ります。	春と秋、2回に分け、2名ずつ初任者研修を受講致します。基本的介護知識と技術を習得し、現場で力を発揮できる様取り組んで参ります。	12ヶ月